

本件如何之処理ニ力研究サレシ
年

人事課長

コノ下下
治命長
了可
年

総務部長
年

経理課長
年

部員

庶務課長
部員

0065

海軍

會通課前
記載道有

長
年

(竹秀納)

0067

本件如何之処理ニ力研究サレシ

人事課長

本件可処分現シ
村ノ財政強化及民間救済ノ
目的ニ付、私下ニモ、本件
是カ処置ニ用キ、是後、
シテ、干渉スル事、本村
ニ、
ト、
ト、

0066

法務部長

件回答
委員會通牒前
命令書記載通有

終

海軍



(竹秀納)

0067

吳海

(未入)

海

出

右

教

總務部長

庶務部長

文書課長

部

縮

印

(竹秀納)

一〇號一四。

昭和二十年十二月十日

吳地方總務部長

同總務部長教

軍需品廠分二周之件回答

廣島特務隊軍需品調查委員會通牒前

題ノ件調査候處別紙指令書記載通牒

之候

別紙ニ通牒

終

人事課

本件如何之取扱い方御承知可也

海軍

0067

昭和二十年十二月五日

吳第三復員地方裁判所審査査

第三復員官補 小林榮次

同 上 廳

檢 察 官 殿

捜 査 官 復 命

依命 廣島縣加茂郡川尻町が海軍に無償

拂下品ラニ尾道市機械株式会社(元池田商事會社)

ニ賣却シタル事要員ニ付同會社専務取締役香西壽

夫方ニ赴キ捜査セルニ在部ノ通り有之

記

昭和二十年九月十三日頃川尻町川本其記者當會社ニ

来リ海軍拂下品アルガ買ヌキトノコトナリシヨリニ檢査シバ

買下答へ四回キ同日三日頃川尻町へ赴キ柳下ノ事情
 可キ是此ノ品物ハ海軍ヨリ川尻町カ無償柳下ヲ受
 付家庭必需品ハ全部柳下各家庭ニ分配シ家庭ニ不
 必要ナル品物ハ町内希望者ノミニテ入札シ有償ニテ買受メ
 凡物品ト判明シタルヲ以テ之ヲ買受ケルコトトシ前記川本某
 及清水某田中某見玉某等ノ四名ヨリ左記物品ヲ現金
 四十八十圓ヲ買受ケタルモノナリ

一 石綿 口一ノ

一 石綿 糸

一 マア一ノ

一 ハキ一ノ

備考

在庫口一ノ

(終)

昭和二十年十二月六日

第三復員地裁判断言本

第二復員官補

林 榮 次

同 二 録

検 察 官 殺

捜 査 一 件 復 命

依命ニ廣島縣加茂郡川尻町ノ海軍無償拂下

處分ニ関シ同町々長河野陽三郎方ニ赴キ捜査セ

ルニ左記ノ通りニ有之

昭和二十年八月二十日頃當り尻町役場ニ海軍ノ士官一

名カ来リ尻町ニ長クク厄シクニナリ又御禮トシテ

海軍ノ倉庫三庫ノ在庫品全部無償拂下ヲ爲シ付

0070

町ノ人々ニ分配シテ呉ルトノ事ナリシヨリ之ヲ受ル者
 回答シタルカ其後一週間シテ四ツク物品ヲ引取シテ呉ルト
 入下困ルトノ申入アリタルヨリ川尻町ヨリ物資ヲ引取シテ會
 方開キ評議ノ結果家庭必需品ハ各家ニ無償分配
 シ必要ナキ物品ハ町内ノ人ノミニテ入札セシ其金ハ學校
 ノ新築費ノ借金拂ヒ及諸設備ノ新築費ニ充當シ
 殘金ハ役場ニテ保管スル事トナリ夫々分配入札等ニ及ビ
 入札金トシテ約十三萬圓當町ノ收入トシテモ三萬圓ハ札
 者ヨリ帯納シテ現在十萬圓保管シテ由テリ尚家庭
 分配品及入札物品ハ左記ノ通り趣テリ
 一、家庭用品分配品
 一、米
 一、油
 一、鹽
 一、手

0071

01

毛	白	硯	洗	物	網	布	銅	札	石	ゴ	ホ
布	木	面	子	子	子	子	子	物	綿	ム	ニ
布	綿	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石

0072

昭和二十年十二月五日

吳第三復員地方裁判所 敬言本白

第三復員官補

小林榮次

同 聴

検 察 官 殿

捜 査 官 復 命

依命 廣島県加茂郡川尻町が海軍無償

拂下品ヲ尾道市機械株式會社(元池田商事會社)

ニ賣却シタル事要員ニ付同會社専務取締役香西静

夫方ニ赴キ捜査セルニ左記ノ通り有之

記

昭和二十年九月十三日頃川尻町川本某氏者當會社ニ

来リ海軍拂下品アルガ買戻カトノコトナリシヨリ妥價トレバ

買下答へ四箇々同日三日頃川丸町ニ赴キ柳下ノ事情
 尋問オスルニ此ノ品物ハ海軍ヨリ川丸町カ無償柳下ニ受
 付家庭必需品ハ全部柳下ニ各家ニ分配シ家庭ニ不
 必要ナル品物ハ町内希望者ノミニテ入札ニ有償ニテ買受ヌ
 ル物品ト判明シタルヲ以テ之ヲ買受ケルコトトシテ前記川本某
 及清水某田中某見玉某等ノ四名ヨリ左記物品ヲ現金
 四万五千圓ニテ買受ケルモナリ

一 石綿 口一ポ
 一 石綿 糸
 一 マアーン
 一 バス
 備考 在庫口ニ
 (終)

0075

昭和二十年十二月六日

吳第二復員地方裁判所蔵言本白

第二復員官補

林 榮次

同 二録

検

察

官

復

命

檢

査

一

件

復

命

依命之濱島縣加茂郡リ尻町ノ海軍無償拂下

處分ニ関シ同町々長河野陽三部方ニ赴キ檢査セ

ルニ左記ノ通り有之

一

昭和二十年八月二十日頃當リ尻町役場ニ海軍ノ士官一

名カ来リリ尻町々長ニテ御禮トシテ

海軍ノ倉庫三庫ノ在庫品全部無償拂下ヲ爲シ付

0076

町ノ人々ニ分配シテ與ヘトノ事ナリシヨリ之ヲ奉ヒ受ヒテ	回答シタルカ其後一週間シテ早ク品物ヲ引取テ是レト	ト下困ルトノ申入アリタルヨリ川尻所ヨリ物資ヲ引取會	ヲ用キ評議ノ結果家々必要品ハ各家ニ無償分配	シ必要ナキ物品ハ町内ノ人ノミニテ入札セシ其金ハ學校	ノ新築費及借金拂ヒ及諸設備ノ新築費ニ充當シ	殘金ハ役場ニテ保管スル事トテ夫々分配入札等ラシタル	カハ札金トシテ約十三萬圓當町ノ收入トナシモ三萬圓ハ札	者ヨリ納付ナク現在十萬圓保管シテ由テリ尚家庭	分配品及入札物品ハ左記ノ通り趣テリ	一、家々ニ分配品	一、去小	一、單手
----------------------------	--------------------------	---------------------------	-----------------------	---------------------------	-----------------------	---------------------------	----------------------------	------------------------	-------------------	----------	------	------

0077

ボ ニ フ オ ー ス	ゴ ム (印 下 用)	石 綿 ワ ー フ	札 物 ワ ー フ	銅 線 切	布 切	綿 子	物 子	洗 面 器	硯	白 木 綿	ラ ン フ ⑤	毛 布
----------------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------	-------------	--------	--------	--------	-------------	---	-------------	------------------	--------

0078

外

昭和二十年十一月十三日

吳鎮守府副官

吳鎮守府御中

廣島縣隊區車需品調査委員會

軍需品處分ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ加茂郡川尻町ハ海軍ヨリ無償拂下ケノ石綿、ロープ等ノ車
需品ヲ約五萬圓ニテ尾道市池田商事會社ニ賣却シアル模様ニ付承知セラレ
度

(終)

海軍

0080

總務部長

2/6

昭和十年十二月三十一日

興市複興委員會轉用部會開催狀況

營業部

首題ノ件左記ノ通り有之

記

一 開催日時 十二月二十六日 自一六〇〇 市役所市長室

一 出席者 委員側 勝田、中本、久保、細田、鹽田、賀谷、廣岡、
各市議 佐々木廣藏、食糧管理關係聯合會長、三菱興支店
長、前田縣會議員

參 興 前興工廠長妹尾中將

市 側 鈴木市長、海邊助役

一 議題 興、廣施設ノ轉用ニ關スル件

海 軍

0081

協働状況

先ツ十二月三十一日、廣工廠見學ノ結果、付キ各視察員ノ所見ヲ述ベ次デ

鈴木市長ヨリ

廣工廠機械鑄物工場ハ運輸省へ機械工場ハ精工省機械車庫部、工作

車庫部補修工場、「タービン」製作工場ハ川南造船所、十一卒廠

製工場ハ福興製鋼工場ノ經營、十一卒廠長濱利製工場ハ中興製鋼

式會社、大廣地區製鋼工場ハ福興製鋼株式會社、十一卒廠能美分工

場ハ東洋紡績株式會社、印刷工場ハ廣町高橋印刷所ガ經營スルト

フゴトニ廣方面ハ決定シテ居ル

但シ川南造船所ノ使用地區ガ運輸省ノ使用地區ト錯綜シ川南ノ方デ

其ノ場所ガナイト住事務出來ナイノテ運輸省ヘ交渉シタガ央レハイ

ケナイ因テ此ノ轉用委員會ニ同社ノ社費ガ見ユテ一應説明スル筈デ

同之松本長官談話

汎臨

海軍

0082

ア
ル
吹上呉工廠ノ造船部施設ハ一月ツカサレ司令部ヨリ業務開始ノ
命令アリタルヲ以テ明年一月初旬關係會社造船部ニ來リ實地ニ就キ
検討セラレ日本造船聯合會ガ何レノ會社ガ之ヲ經營スルカヲ定メ二
月初旬ヨリ愈々新設足スル見込アリ
獨逸駐軍司令部ヨリ禁止サレテ居タ第二船渠ノ使用ハ使用費支ナキ
旨御贈ガアツタ

以上市長ノ説明ニ對シ

往々本縣食糧營團長ヨリ

廣ノ利材工場ノ規模機械カヲ見タ處實業學校ヲ新設スルコトガ最
イト思フ

奥方面ハ規模ガ大キノデ一口ニハ云ヘヌ好食糧難ノ折柄政府ハ粉
食獎勵サレテ屬ル關係上造船部又ハ機部ノ一ダレニテ使用シ

本件...
 本...
 本...
 本...
 本...

○

ヲ製粉工場及製粉機械ヲ製作スルコトニシテラドウカト思フ

定ニ對シ第一案ノ實業學校ノ新設ニ付テハ賛成者少シ

第二ノ製粉並ニ此ノ機械製作ニ付テハ一商贊成ス

要項ノ如ク

(1) 現在在ノ處抽象的意見開陳ノ域ヲ脱セズ委員竝ニ市當局側ニ於テ

具體的方策ノ提案ナシ

(2) 妹尾前長工廠長ハ單ナル參與トシテノ出席ニシテ同人ヲ中心トシ

テノ委員會的雰囲気ナク又會社等ノ代辦的存在トモ見受ケラレズ

(3) 二十九日委員會ヲ催シ妹尾前工廠長ノ所見ヲ聽取スル機操

(4) 次同ヨリハ多少具體的方面ニ審議進歩スルニハナキヤト慮料セラ

(終)

海軍

事務部

総務部長

（印）

総務部長

佐 各地方復興局長

部

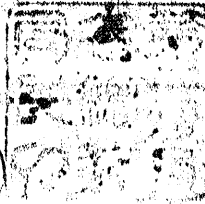
員

第二復興省事務部長

昭和二十一年一月九日

10432

（印）



（印）

是地方復興局長官殿

二復興事務局第七号

特許種貨品取扱ニ關スル件通知

目録ノ件ニ關シ總ニ二復興事務局第三九號ニ依リ内務省ニ照會中ノ最今般
對紙内務省發關集三六四號ノ通内務省ヨリ各地方長官宛勸諭發布セラル
タルニ付可然取附相取度

一別紙一紙一紙一

寫送付先

復興省 佐 各地方復興局長

（印）

20.1.14

0085



農務省訓令第六四號

昭和十年十二月二十四日

各地方長官 殿

農務省調査部長 大島弘夫

特殊物件中食糧品之處置ニ関スル件

聯合軍ニ返還シ受テタル食糧品中特殊糧食(乾燥食品)及糧食糧(ビスケット)食糧)ハ尤記シテ分ヨリ各地方復舊局需品部ニ引渡シテ決定相成候條之ヲ輸送方御配意相成度此段及通牒候 尚輸送完了前日数量ハ、部度之、内務省調査部長並ニ農務省食品部長迄通報相成度

地域区分 受領区分

0086

一 北海道 青森縣	大湊地方復員局青森部
二 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 相模 山梨 長野 静岡 愛知 東京	福原地方復員局青森部
三 新潟 福井 富山 石川 金澤	舞鶴地方復員局青森部
四 岐阜 三重 滋賀 兵庫 奈良 和歌山 大阪 大坂地方復員局青森部	大坂地方復員局青森部
五 鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	呉地方復員局青森部
六 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	佐々保地方復員局青森部

0087

中行第三五期
昭和十一年一月十四日

中國地方行政事務局長官

楠瀬常緒

吳地可復會局

總務部長 殿

機械類處理委員會委員幹事

委囑ノ件

今般當事務局内ニ別紙ノ通り機械類處理
委員會設置相成候處本委員會ヲ早急ニ
南催ノ要有之爲委員委囑ニ内ニ豫メ貴
意ヲ不得尤記ノ通リ卷令相成候條御了承
相成度候也

0088

第一條

機械類處理委員會規定

陸海軍作業廳ニ設備セラレタル
機械類其、他軍保有機械類、適
切ナル移設利用ヲ圖ル爲中國地方
行政事務局内ニ機械類處理委員
會(以下單ニ委員會ト稱ス)ヲ置ク。

第二條

委員會ハ委員長ハ委員長、委員及幹事
若干名ヲ以テ之ヲ組織ス。
委員長ハ中國地方行政事務局長官
ヲ以テ之ニ充ツ。
委員及幹事ハ關係官廳、官吏其他
適當ナル者、中ヨリ中國地方行政事
務局長官ニ於テ之ヲ任命ス。委員及
必要ニ應シ臨時委員ヲ置クニ得。

第三條 委員会之書記ヲ置ク
ス。書記ハ上司ノ命ヲ承ケ展務ニ従事

0090

機械類處理委員會幹事名簿

各通

中國地方行政事務局次長 川井章矢

機械類處理委員會委員 王命天

高橋 等

各通

中國地方行政事務局書記官

山田三義

中國地方商工局

富松四郎
秋山武史

機械類處理委員會幹事 王命天

中國地方行政事務局屬

萩原廣士

機械類處理委員會書記 王命天

廣島財務局統務部長

石原次郎

廣島財務局國有財産部長

渡辺寅二

各通

中國復員監部統務部長

河本三郎

吳地方復員局統務部長

矢牧

廣島縣內政部長

志城 林

廣島縣 經濟第二部長

口益耕一郎

山口縣 內政部長

高宮資一

今 經濟第三部長

山本 豊

岡山縣 內政部長

西岡 廣吉

各通

今 經濟第三部長

坂本 崇武

今 內政部長

河野 義信

今 經濟部長

伊吹 貞治

今 內政部長

壺川 覺

今 經濟第二部長

横田 正人

機械類處理委員會委員ヲ委嘱ス

廣島財務局第一管理課長

松本 欽哉

各通

今 第二管理課長

賀谷 卓一

機械類處理委員會幹事ヲ委嘱ス

総務部

海軍省

MEMORANDUM

Handwritten notes and circular stamps, including the number '137' and various illegible markings.

0093

SCAJAP(re)
-137-

ADMINISTRATOR NAVAL SHIPPING CONTROL AUTHORITY
TO JAPANESE MERCHANT MARINE (SCAJAP)
UNITED STATES PACIFIC FLEET
(NAVY NO. 3923)

Serial: 54

11 January 1946

MEMORANDUM:

TO : (1) Civilian Merchant Marine Committee
(2) Director of Second Demobilization Department.

SUBJECT: Ex-Naval personnel - Employment of.

1. It is expected that ex-naval personnel, both officers and men, be given equal opportunity of employment in manning of all ships under control of SCAJAP as is given to members of the merchant seaman pool.

2. If this is not being done, you are directed to inform this office giving the reasons therefore.

一九四六年一月十一日

覺書第五四號

發 日本船舶統制官（S O A J A P）

宛 (1) 船舶經營會

(2) 第二復員省大臣

元海軍々人ノ屬傭ニ關スル件

1 日本船舶管理局ノ統制ヲ受クル一切ノ船舶ノ乗員ノ屬傭ニ際シテハ士
官タルト下士官兵タルトヲ問ハズ一切ノ元海軍々人ニ對シ商船々員錄
傭員ト同等ノ就職ノ機會ヲ與ヘラレ度

2 右ノ處置ヲ取ラザル場合ハ其ノ理田ヲ併記ノヒ當極ニシ其ノ旨通知相
成度

0094



吳地復第一七九號

昭和二十一年一月十五日

吳地方復員局管業部長 殿

吳地方復員局總務部長

資材提供ノ件申進

別紙資材圖ノ添顯彰會ニ極力提供相成度

(別紙添)

(終)

(二六一三 永井精)

海軍

0095

新日本漢學堂乾貨形明細書

一、毛布	一五〇枚
二、被服或服地布	五〇〇疋
三、冬肌着	五〇〇疋
四、野戰烹炊釜	五組
五、食器鍋	五〇組
六、食器類	一〇〇〇疋
七、洗濯槽	五〇組
八、野外天幕及附屬品、天幕用帆布	若干
九、乾パン(應急食糧)	五〇名(一ヶ月分)
十、副食缶(少類)	五〇名(一ヶ月分)
十一、調味料	五〇名(一ヶ月分)

以上

海軍

(竹書館)

新日本農業学苑資料明細書

一、農具製作要具及資料

(イ)	金敷(金糸)		五組
(ロ)	鞆(吹子) 鍛造用電動送風機		五組
(ハ)	ハンマー	大中小、各様	五組
(ニ)	火造り器	大、各様	五組
(ホ)	バイス	大中小	五組
(ヘ)	金引鋸(手鋸) 要具及替歯		五組
小	鑪	大中小、丸角平、各型様	五組
(カ)	ボール盤(動力)		五組
(キ)	手動式ボール盤	大型	五組
(ク)	ドリル	各様	五組
(コ)	タツノ	各様	五組

海軍

(竹書形)

0097

(イ)	八尺旋盤材	壹伍
(ロ)	六尺旋盤材	貳拾
(ハ)	四尺旋盤材	貳拾
(ニ)	ハンカ 接合要具及附屬品	貳伍
(ホ)	米 礮砂 貳 礮殼	壹千
(ヘ)	礮石類	壹千
(ニ)	木工具 鋸等 貳	貳伍
(イ)	大工道具 貳	〃
(ロ)	小工道具 貳	〃
(ハ)	動力がらみ 各種	〃
(ニ)	動力がらみ (金鋼礮 取替品等) 各種	〃
(カ)	鐵刀 各種	〃
(ク)	モシヤ 各種	五
(コ)	フマ 各種	五

足踏廻轉丸蒸礮及並通各種

海軍

0098

新島真婆学校資材明細書

本校舎建築用資材、中産具物件等

(イ) 釘	14	1 柱込
(ロ) 金物	5	5
(ハ) 亜鉛引鉄板	1	40 枚
(ニ) 水道用パイプ	若干	若干
(ホ) 硝子	5	5,000 貫
(ヘ) セメント	2,000	袋
(ト) 煉瓦	若干	若干
(チ) ペンキ	若干	若干
(リ) 防腐塗料	100	樽
(ル) 電燈線 (内外線)	若干	若干
(レ) ホンノウ	1	揃

海軍

(竹巻納)

0100

長官

庶務課長

總務部長

庶務課長

東地復興局の理事部長

物品折下、件照會

右記者より別紙通り申請有之候事有候折下至如
下認り修築可申候事申候事

藤澤建設株式会社

取締役社長

岡本 豊

東地復興第三号路

昭和三年 月 日

東地復興局 庶務課

査察

淨書

校合

伊藤 長之川	網	西脇 冬永
神川 碩念	藤川 田邊	姉尾



起草者

庶務主任

0102

拂下申請書

一 事務用机並椅子

十組 (机十個 椅子十個)

一 邦文タイプライター

二基

一 中古自動車

三輛

一 書箱戸棚

二個

右物品は、^{地方}復員局裁判所(大竹町所在)

於て使用中ノモノナルトヨリ同所閉廳時

一 拵拂下相願度及申請候

0103

昭和五年二月十五日

豊市海岸通三丁目三

東亜産業株式会社

取締役社長

岡本

興茂



第二復員省
豊地方復員局

總務部長殿

0104

長官

三月

大竹連第二五號ノ一五

昭和二十一年二月二十一日

吳地方復員局長官殿

大竹上陸地連絡

總務長 却る

海軍兵學校岩國分校ノ施設ニ關スル件上申

昭和二十年吳鎮守府命令第四三號ニ依リ首尾施設ハ接收後山口縣知事
リ借用ヲ受ケ保管致附リ候處今般濠洲軍艦駐ニ依リ復員者豫借施設トシ
テ使用不能ノモノト認メラレ候條山口縣ニ返却ノコトニ御懸許相成度

(終)

懇請あり

（署名）

吳地連第二五號

海軍

香蘭 2月8日 吳鎮 2月8日 付済

大竹上陸地連絡 長官

0105

Handwritten Japanese text on a document fragment, likely a letter or official record. The text is written in vertical columns from right to left. The characters are somewhat faded and difficult to read precisely, but appear to contain names and dates. A small number '0106' is printed at the bottom right of the fragment.

三七〇五ノ二

昭和三年三月二日

査閱 淨書 校合 發布



(竹秀館)

吳地方復興局長官

廣島財務局長殿

工場施設使用許可願書件回答

因第一九二號照會首題ノ件別紙一通者予間ニ於テ

現地協定成立ニ付了承相成度

(別紙添)

寫送付先

吳地方復興局管業部長(別紙添)

總

海軍

0107

部 長

管業課長

庶務課長

寫送付充
製領簿本
各課本
課内
各班長

國策一九三三第

昭和二十一年二月十六日

吳地方復員局長殿

廣島城務局長殿

安永

工場施設使用許可一箇ノ件
標記ノ件一箇ノ別紙一通申請有之候ニ就テハ之
カ可ク否ニ件一應申員局ノ御意見承知致度
右及照會候也

(別紙添)

終

総務課長

総務課長

部 長

昭和二十一年二月廿一日

資料用筆入済

(機務課航乙)



吳管第五七九号

吳地務課 文 〇

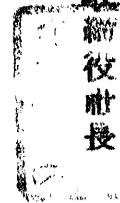
海 軍

0108

昭和廿一年二月 日

尼崎市中央新町字中西ノ切六四番地
尼崎製鐵株式會社

取締役社長 井上長太夫



府縣財務局長殿

舊吳海軍工廠屑鐵處理ニ關シ同廠

製鐵部設備等使用認可書下附御願

拜啓愈々御清莊之段奉慶會候

陳者首題ノ件ニ關シ豫而大藏大臣宛別紙申請書ノ通り願出中ノ處一月廿

四日附藏國第七八號大藏省國有財産部長名ヲ以テ使用認可決定ノ通知相

受候間正式使用認可書御下附被下度此段御願申上候

謹言

0109



昭和二十年十一月

日

尾崎市中瀬新田字中西ノ切六四番地

尾崎製鐵株式會社

取締役社長 井上長太 夫

大臣 謹 啓 三 嚴

爲與海軍工廠用ノ廢材ニ關シ同廠製鐵部設備用
許可御廳

拜啓 益々御陰昌之段奉慶候儀 陳者舊與海軍工廠一ハ被災ニ由リニヨル廢材出積シ有リ、埒下輸送
難ノ實狀ニ於テ之ヲ他ニ移動シテ廢材スルハ斯田的ニモ少無出由一モ良策ナラサルモノト思奉セラ
ルル一方國內ニ於ケル鐵鋼ノ生産ハ御座牛和産養ノ需要ヲテシ得サル狀况一アルヲ以テ加減方算
體迄ニヨリ同廠内廢材中廢鐵ニヨル發傷少キニ備テ修造使用シ却取ニ於テ製鐵部作中ヲ行ヒ一節ハ
即時製品化シ世ハ當世設備ヲ利用シテ各種ノ廢材ヲ廢材シ民生復興一寄與致現候節左前製鐵部承
ノ上等別ノ御座ラ以テ御許可作廢現候上候

0110

- 一 德興中軍工廠製造品類中別紙類は其ノ作業者ニ必要ナル加給、機械器具類ノ使用
 - 二 第一項ニ列シタルシ必要ナル無機質ノ使用
 - 三 同前條並施設、機械器具類及修繕用材料ノ使用
 - 四 同前條力、水運等ノ施設ノ使用
 - 五 別紙製造品ノ作業者ニ必要ナル材料中現在ノモノノ使用
- 前項中第一乃至第四項ハ無償、但シ動力及水運料金ハ有償、第五項ニ列シタルハ有償トシテノ價格一ツキアハ別紙製造セラルルモノトス

以上

0111

目的

德英海軍工廠ニハ船舶製造廠所在シ、廢棄ニヨル建築物、廢機等ヨリ發生セル層藏ヲ合スル
トキニハ數十層藏ニ達ストイフ。更ニ沈船引移並ニ解体等ヨリ生スル層藏ヲ併セ考フルトキニハ
一箇所ニ集積スルモノトシテハ本邦他ニ見サル大量ナリ。從ツテ鐵源不足ノ我國トシテハ急遽之
カ利用更生ヲ計ルノ要アリト認ム。

而モ我國鐵源ノ生産ハ到底平和産業ノ需要ヲ充シ得サル狀況ニアリ、且又輸送至難ノ現況ニ鑑ミ
現地ニ於テ之ヲ處理スル學力最盛マシキ事ナルヤ明カナリ。

幸ヒ同廠内製鐵施設ニハ多少ノ修理ニヨリ稼働可能ノモノ尙存スルヲ以テ之ヲ利用シ製鐵作業
ヲ行ヒ現場トシ、之ヲ當社設備ニヨリ各種鐵材ニ廢棄シ製品化スルカ民生復興ニ寄與スル所以ナ
リト信ス

尙又德英海軍工廠ノ一部ニ於テハ船舶修理ヲ許可セラレタルヤニ仄聞スルヲ以テ之ニ必要ナル
設備和材ヲモ本廠設備ヲ利用シ製造供給セントス。
廢兵器處理ニ關シテハ之ニ協力スルモノトス。

實施要領

第一製鐵作業

(イ) 雷氣爐利用ニヨル製糖作業

雷氣製糖工場所在雷氣爐中損傷程度輕キモノヲ復舊シ製糖作業ヲ行フ。
動機製造可能昇込量左ノ通り

三月 四月 五月 六月 七月 八月
雷氣爐左ノ通り
雷氣爐ニ基 大雷爐一基 三雷爐一基 五〇〇K高周波爐一基
以下同

(ロ) 平爐利用ニヨル製糖作業

舊英工廠所在石炭爐ハ數萬噸ニ及フモ、進駐軍ノ使用、運輸省、鐵道其他ヘノ利用能力既ニ行ハレ居リ一方製糖用炭ノ所在量僅カニ一、二〇〇噸ニ過キサルト以テ製糖用炭ノ入手困難ナル現状ニ於テハ平爐ニヨル製糖作業ハ實施至難ナルヘキモ、石炭製糖好轉シ製糖用炭ノ入手可能トナレル際ニハ第一製糖工場所在爐中使用可能ノ状態ニテ殘存セルニ一、二噸平爐三基ヲ利用シ製糖作業ヲ行フ。此ノ場合一ヶ月製造可能量約一、二〇〇噸ナリ

(ハ) 修理船舶用鐵機油料材製造作業

戦災ニヨル損傷程度低キ鐵造工場及小形鐵機ヲ利用シ造船施設ニ於テ旅行サルヘキ
修理船舶用鐵機油料材製造作業
同製造工場所在小形鐵機ヲ使用シテ修理作業ヲ行フ。

第二 炭 採 掘

第一 煤 炭 採 掘 ノ 爲 御 當 々 夢 スル 工 場 名 左 ノ 如

一 廣 野 炭 礦 工 場 (廣 野 工 場)

二 廣 野 二 號 炭 礦 工 場 (廣 野 二 號 炭 入 手 可 出 ノ 場 合)

三 錦 池 工 場

四 中 越 炭 礦 工 場 所 在 汽 車 及 水 摩 原 動 機

共 甲 越 炭 礦 工 場 所 在 汽 車 製 造 設 備

六 廣 野 工 場 (小 形 炭 礦 場)

七 廣 野 炭 礦 會 社

八 此 ノ 外 「 ス ク ラ ッ プ 」 及 原 材 料 ノ 貯 庫 及 保 存 場 (特 ニ 南 門 ヨ リ 島 小 島 石 炭 貯 庫)

沿 岸 地 域 (一 帶) 、 製 炭 ノ 箇 場 及 何 夜 場 、 輸 送 ニ 要 スル 施 設 等 ヲ 包 含 スル モ ノ ト ス。

六 石 ニ 必 要 ナル 機 器 具 類 ハ 富 然 之 ニ 含 マ ル モ ノ ト ス。

第三 所 要 主 原 材 料

一 石 炭

平 爐 作 業 ヲ 行 ハ リル 場 合 ニ 於 テ モ 電 氣 爐 ニ ヨル 製 鋼 作 業 ニ 附 隨 スル 諸 件 業 、 製 鐵 作 業 等
ノ 爲 毎 月 約 三 〇 〇 〇 噸 ノ 石 炭 ヲ 必 要 ト ス 。 從 ツ テ 現 在 末 夕 手 ヲ 觸 レ サル 飛 渡 場 所 在 ノ 石

炭約一六〇〇〇噸ハ是非トモ本作業實施ノ爲確保シ置クヲ要ス
平爐ニヨル鑛山作業ヲ行フ場合ハ此ノ外毎月一四〇〇噸ヲ必要トス。

ニ 節 極

三〇噸及六噸管氣爐用ハ約半年分ノ貯在アリ、此ノ極確保ヲ要ス。三噸爐用ハ炭ニ在廉ナシ

三 其ノ他ノ原料中舊吳廠所在ノモノハ出來得ル限り本作業ニ使用スルモノトス。但シ石灰石
苦灰石、「フェロマンカン」、木炭、「コークス」、粘土、「タール」、苦汁等ハ直ニ
給ノ途ヲ講スルヲ要ス。

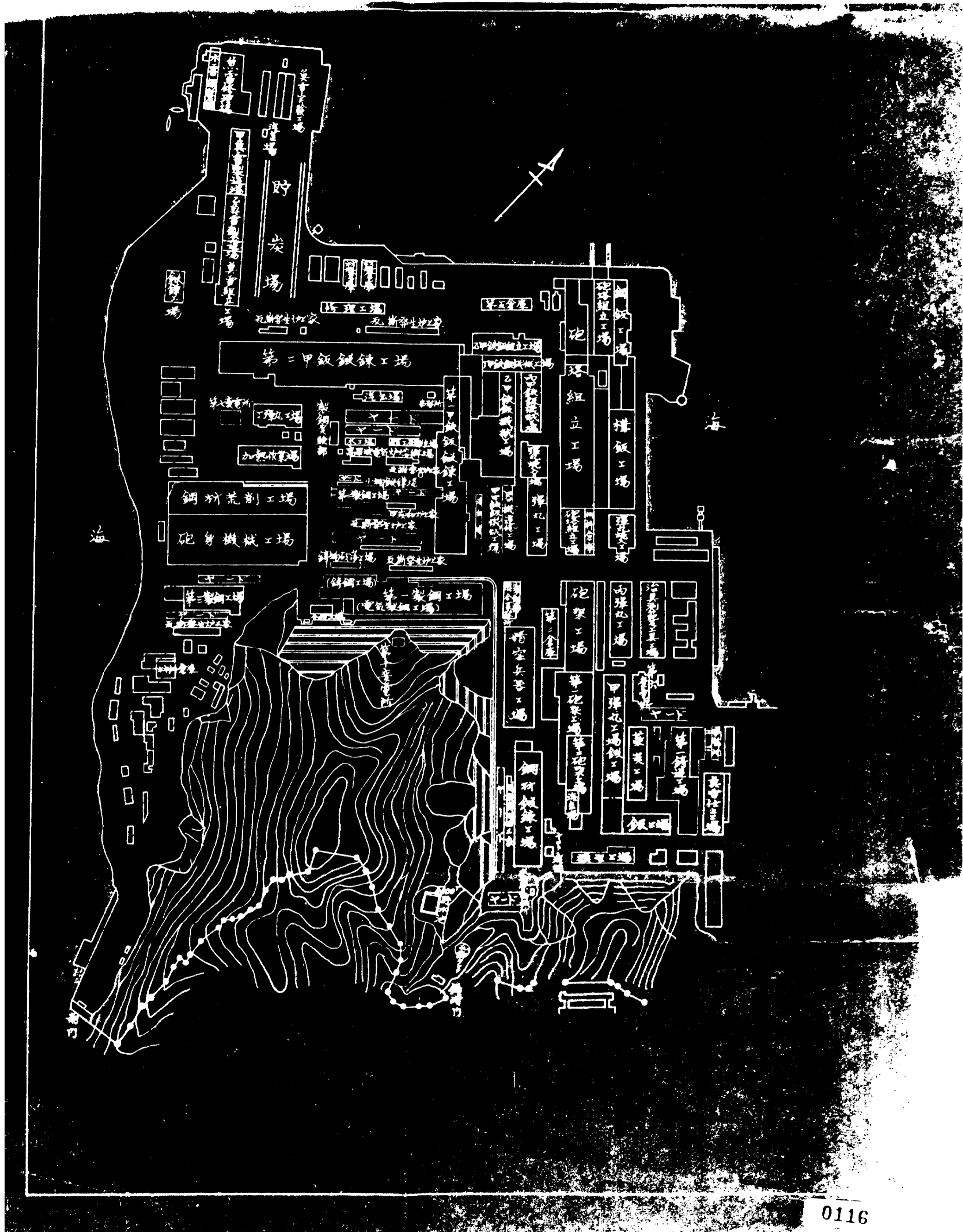
四 電力約一四〇〇〇 W ヲ要ス

五 約一五〇〇〇噸/日ヲ要ス

第四 輸 送 作 業

前記諸作業ヲ完遂スル爲ニ必要ナル輸送機噐ノ使用及輸送作業ノ圓滑化ニ關シテハ特ニ考
慮セラル、モノトス。但シ廠外輸送ニ關シテハ當社ニアラズ。

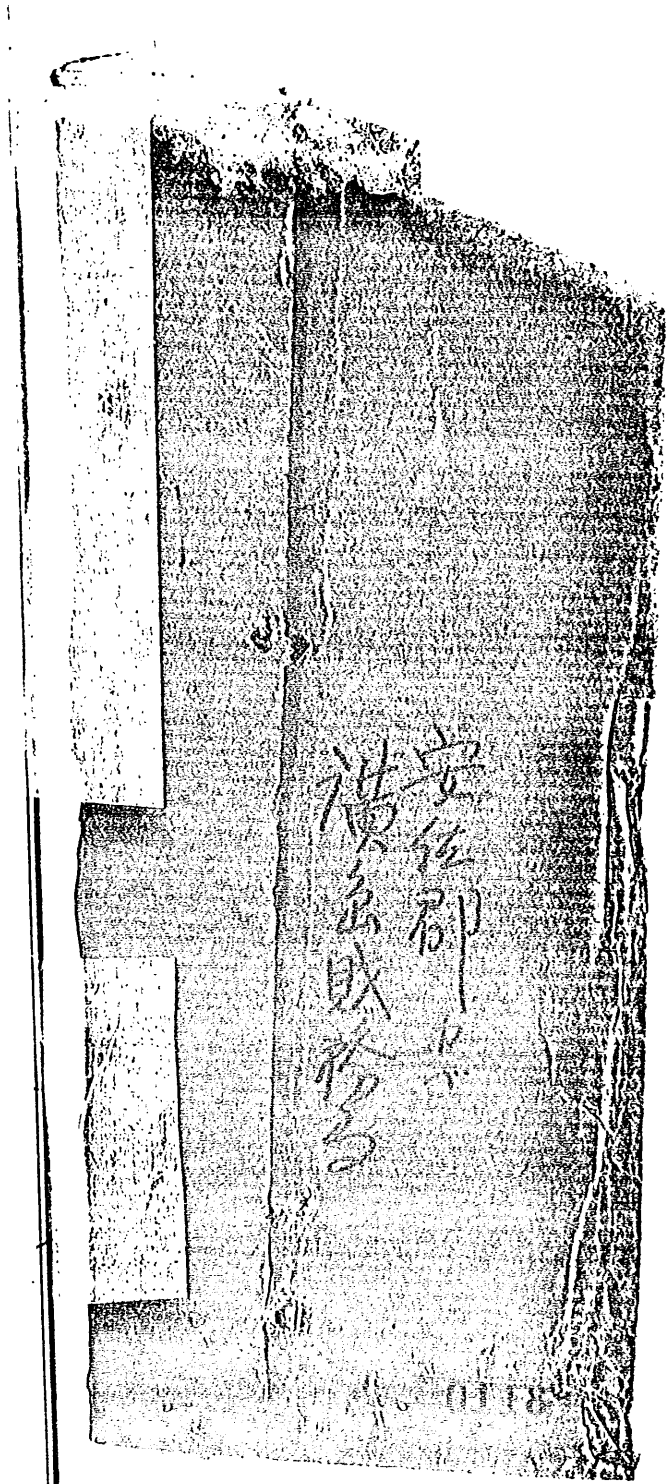
(終)



0116

Handwritten Japanese text on a document fragment, including characters such as 地方復員局長 (Local Reconstruction Bureau Chief) and 長官 (Chief Official).

677



26